

第2次みどりの風吹くまちビジョン

改定アクションプラン（素案）の概要

【資料4-2】

平成31年3月に策定した第2次みどりの風吹くまちビジョンに基づき、令和4・5年度の取組内容を定めた計画。

第1章 本計画の位置付け

(1) これまでの取組

- ・ランドデザイン構想の実現を目指し、平成31年3月に第2次みどりの風吹くまちビジョンを策定
- ・これまで様々な「練馬区モデル」を展開。

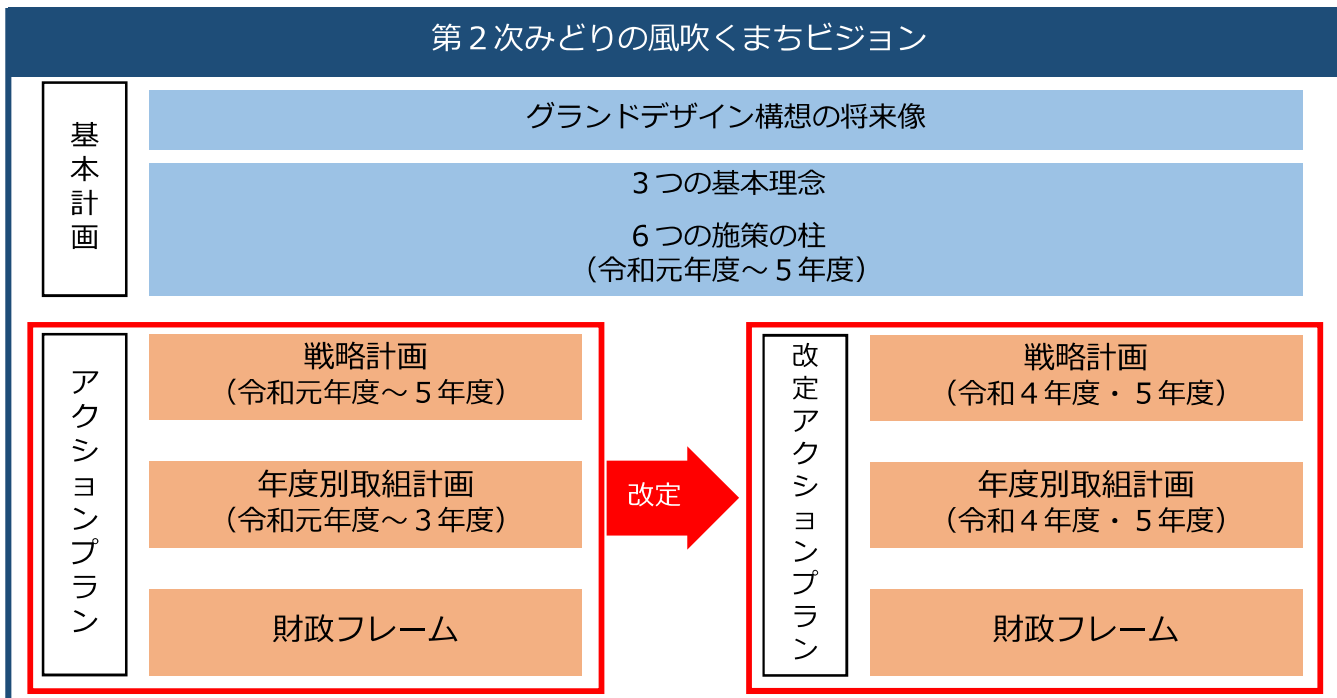
(例)練馬子ども園の拡大、都区協働による児童相談体制の構築、ねりっこクラブの拡大、街かどケアカフェ、高齢者みんな健康プロジェクト、ひとり親家庭自立応援プロジェクト、防災まちづくりの推進、世界都市農業サミットの開催、真夏の音楽会、練馬新能の開催など

- ・新型コロナウイルス感染症に対しては、区民の命と健康を守り、区民生活を支えるために必要な施策を、時機を逸することなく他区に先駆けて実行。

(例)診療所でのPCR検査の実施、ワクチン接種「練馬区モデル」の構築、練馬区酸素・医療提供ステーションの開設、ひとり親家庭への臨時特別給付金の支給、中小企業への特別貸付・借換特別貸付の実施、保育所等の原則開園の堅持など

(2) 計画策定の趣旨

- ・新型コロナの影響により、経済・財政状況など、区政を取り巻く環境は大きく変化。非対面・非接触の生活、デジタル化の加速など、区民生活にも大きな影響。
- ・第2次ビジョンの基本理念や区の目指す姿は大きく変わらないが、社会情勢の変化を踏まえた見直しが必要。引き続き、区民生活を支える上で必要な施策を充実するとともに、この間の変化を踏まえた新たな課題に対応するため「改定アクションプラン」を策定。
- ・第2次ビジョンの「3つの基本理念」や「6つの施策の柱」などは継承しつつ、社会情勢の変化に対応するため、「戦略計画」、「年度別取組計画」の見直しや追加を行った。



※改定後の第2次みどりの風吹くまちビジョン体系図

第2章 コロナ禍による区を取り巻く状況の変化

(1) 少子高齢化の更なる進行

- ・令和2年の練馬区の合計特殊出生率は1.09と更に低下。少子化が加速する懸念。
- ・他県からの転入者・外国人も大幅に減少、この傾向が続けば、人口は今後減少に転じる可能性。
- ・高齢化率は21.8%で少子高齢化は着実に進行。

(2) 財政の持続可能性の堅持

- ・令和2年度は特別区財政調整交付金が86億円も減少。コロナ禍前の水準に戻るには数年を要すると見込まれる。
- ・このままの状況が続けば、今後数年で基金残高は底をつき、起債残高は大幅に増加する懸念。

(3) デジタル化の加速への対応

- ・オンライン化した区の行政手続は全体の約15%。区民サービスの向上と業務の効率化に向け更なる拡充が必要。対応が遅れている中小企業、商店街や、町会・自治会などへの支援、機器に不慣れな高齢者への支援等、きめ細かな対応が求められる。

第3章 施策の体系

- 6つの施策の柱ごとに、区の基本姿勢と施策の方向性を明示
- 22の戦略計画ごとに、これまでの主な取組、新型コロナウイルス感染症拡大への対応、今後の課題、令和4・5年度の主な取組について記載

<追加・変更か所>

- | | |
|-------------------|--|
| 施策の柱
2 | 戦略計画 6 元気高齢者の活躍と介護予防の推進
→ 元気高齢者の活躍と健康づくり・介護予防の推進【変更】 |
| 施策の柱
3 | 戦略計画 9 住み慣れた地域で安心して医療が受けられる体制の整備
→ 感染症対応力の強化と安心して医療が受けられる体制の整備【変更】 |
| 施策の柱
4 | 戦略計画 10 みどりの風の中で、自ら健康づくりに取り組めるまちの実現
→ コロナ禍であっても、区民一人ひとりの健康づくりを応援【変更】 |
| 施策の柱
4 | 戦略計画 15 住宅都市にふさわしい自立分散型エネルギー社会へ
→ 脱炭素社会の実現に向けた総合的な環境施策の展開【変更】 |
| 施策の柱
6 | 戦略計画 22 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進【新設】 |

年度別取組計画（令和4・5年度）

- 2か年の具体的な取組を戦略計画ごとに記載する年度別取組計画（素案）を策定
- 取組ごとに、概要、令和5年度の目標、令和3年度末の現況、令和4・5年度の取組を記載